

# いびつな世代構成

## 持続可能な 清掃事業の確立を求める

これまでの目黒区と現状

これまで目黒区は、2008年度に資源回収(容器包装プラ含む)が全面委託されました。車付化は、2010年度に新大1台が導入されたのを皮切りに、2013年度には一部小型プレス車にも導入がされ、以降は順次車付化が進み、現在では小プ収集組の約4割を占める状況となっています。人員は、定年前職員が84名、再任用職員が8名、年度雇用の会計年度任用職員7名が配置されており、執行体制は小プW24

# いま

## No.43

### 清掃事業は…

#### 目黒区



▲老朽化が進む清掃事務所は建替必須だ

セツト、小特3台、新大1台、軽小7台となっており、直営車は小プ8台稼働となっています。尚、2017年4月より目黒清掃工場建て替えに伴い、可燃全量を他工場に搬入しています。2023年3月の竣工に向け、今年度後期計画から、試験操業の開始に合わせて作業計画も変更される予定となっています。

新規採用については、清掃・リサイクル事業推進体制年次計画に基づいて適宜採用を行っています。この4年間は毎年若干名を採用しており、現在7名の若手が支部青年部を立ち上げ、基本組織を盛り上げてくれています。しかし、これまでの採用抑制の弊害で、いびつな世代構成となっており、業務の中核となるべき世代が少ないのが現状です。今後は持続可能な清掃事業の確立と支部体制を強固にするため職員定数化を求め、活力ある職場の維持、先輩から学び培った技術・技能を継承していきたいと考えています。

天野 孝信



▲支部を盛り上げてくれる青年たち

### 今後の検討課題

清掃事務所(築49年)と清掃事業所(築23年)の庁舎があり、このままでは事業の継続もままなりません。目黒区は小面積でも住宅地が多く、幅員のある幹線道路も少ないため、建替候補地の検討や、技能長の再任用での職の設定について懸案となっており、早急に当局と協議し清掃事業のあり方を再検討することが必須となっています。併

清掃事務所(築49年)と清掃事業所(築23年)の庁舎があり、このままでは事業の継続もままなりません。目黒区は小面積でも住宅地が多く、幅員のある幹線道路も少ないため、建替候補地の検討や、技能長の再任用での職の設定について懸案となっており、早急に当局と協議し清掃事業のあり方を再検討することが必須となっています。併

# 鬼木まこと当選「比例代表」

公共サービスの充実・強化に期待  
埼玉選挙区では「高木まり」が議席を死守

第26回  
参議院議員選挙

国会での奮闘に期待  
7月10日第26回参議院議員通常選挙の投票日がされ、わが組合が推薦した自治労組織内「鬼木まこと」は比例代表の議席を確保することができました。掲げた目標得票数には及ばなかったものの、この間の各支部・各組合員のご奮闘に改めて敬意を表します。選挙区では、わが組合が推薦した東京選挙区の「松尾あきひろ」は惜敗、埼玉選挙区の「高木まり」は立憲の議席を死守しました。

他争点としては、一向に落ち着かないコロナ対策、原発再稼働を含めたエネルギー問題、社会保障制度の充実など、課題を上げれば切りがありません。鬼木さんをはじめとした立憲野党には、労働者・市民の視点に立った実効性のある政策、国会での論戦を期待します。



最後に、組織内候補の当選にむけて、組合員の皆さんにご協力いただき、無事に当選したことについて

引き続き自治労運動に結集を  
投票の前々日には安倍元首相が銃撃されるという事件が起きましたが、今回の選挙は、ガソリン価格の高騰や物価高への対策が大きな争点の一つでありました。岸田首相は賃上げを内外に主張していますが、そもそも30年間にも亘って低い賃金構造を作り出したのは自民党であります。また、

「地球環境は先祖から譲り受けたものではなく、われわれの子孫から借り受けたものである。」これは、サン・テグジュペリの名言であります。自分の子どもや子孫のためにも、地球に優しく大切に扱わなければなりません。また、現代人を生きた私たちに、子孫へ自然を返さねばなりません。

自治労大都市共闘清掃部会第33回定期総会が6月18日、19日にかけて北九州市「リーガロイヤル小倉」にて開催。全国から加盟全単

「地球環境は先祖から譲り受けたものではなく、われわれの子孫から借り受けたものである。」これは、サン・テグジュペリの名言であります。自分の子どもや子孫のためにも、地球に優しく大切に扱わなければなりません。また、現代人を生きた私たちに、子孫へ自然を返さねばなりません。

## 戦争は最大の 環境破壊だ

### 清掃部会としても 平和を追求



▲副議長を退任した江森委員長

冒頭、松本部長(神戸市役)から「戦争は最大の環境破壊である。清掃部会としても、引き続き平和への取組みを追求する」と言

「地球環境は先祖から譲り受けたものではなく、われわれの子孫から借り受けたものである。」これは、サン・テグジュペリの名言であります。自分の子どもや子孫のためにも、地球に優しく大切に扱わなければなりません。また、現代人を生きた私たちに、子孫へ自然を返さねばなりません。

2023年度から始まる定年延長制度に向けて、今年度48歳以上59歳未満の職員を対象に意識調査アンケートを実施しました。その結果、約63%の職員が定年延長は希望せず、再任用短時間勤務を希望するとの衝撃的な調査結果となりました。

理由としては「体力面で不安がある」「現職の7割の賃金ではやりたくない」という意見が多く寄せられました。特に、運転職員の定年延長希望者は1名しかおらず、6年後には小プや新大の稼働ができない状況となります。災害時対策を含め、運転職の新規採用を実現させなければなりません。中央区は他区の動向を注視し合わせていく体質なので、運転職の新規採用をせひ勝ち取っていただきたいと思っています。

このアンケート調査結果を当局に認識させ、定年延長の職のあり方を検討、高齢職員向けの新規事業の確立など、誰もが安心して定年を迎えられるよう取り組みを強化しなければなりません。これから多くの職場で直面する課題だと思えます。共に頑張りましょう。

中央区担当中執  
高島 稔